

令和4年度

授業改善推進プラン

東京都北区立浮間中学校

令和4年度 学力向上を図るための全体計画

北区立浮間中学校

令和4年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	全学年に共通して、説明的文章の指導に力を入れる必要がある。1年生は事実と意見を読み分け、内容を正確に読み取る力、2年生は文章を読んで考えたことを書く力、3年生は短時間で要点を捉える力を説明的文章の指導を通して育成していく。
社会	3年生はおおむね良好だが、1、2年生は、観点別結果で、特に「知識・理解」の正答率が低い項目が多い。単元終了ごとに語句や資料に関する小テストを実施するなどして、基礎的な内容の習得を図る。
数学	全学年に共通して、計算分野に課題が見られる。2学期以降に計算コンテストを入れ、対策していく必要がある。また、1・2年生においては学力の二極化が見られる。少人数授業を活用し、学力向上を図る。
理科	主体的に学習に取り組む態度の観点では、全学年目標値に届かなかった。2年生については全観点目標値に届かず、主体的に学習に取り組む態度、知識・技能の観点では大きく下回っている。主体的な学習ができる力を育成していく。
英語	4技能全体をととしてリスニングの正答率が最も高く、小中一貫カリキュラムの実践が効果として表れている。一方で、正確さが求められるライティングについては課題がみられ、知識を活用して自己表現する力を育成していく。

本校の教育目標
<ul style="list-style-type: none"> ○自ら考え正しく判断し、主体的に行動できる生徒(知) ○感性豊かで思いやりのある、礼儀正しい生徒(徳) ○心身ともに健康な生徒(体)
<ul style="list-style-type: none"> ◎明るい未来を切り拓く生徒の育成(令和4年度の重点目標)

本校が生徒に育成したい力
<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人の「確かな学力」の育成 ○豊かな感性と思いやりの心の醸成 ○志高い自立した個人及び社会の形成者としての資質・能力の育成

学力向上にかかわる経営方針
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)を推進し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、これらを適切に活用できる能力をもった生徒を育成する。 ・習熟度別指導(数学)を行うことにより、学ぶ意欲を全教科に広げ、学力の定着、向上を目指す。 ・一人1台端末や高速ネットワークを活用し、放課後学習や過程学習の定着を図る。

校内における学力向上推進体制
<ul style="list-style-type: none"> ○研修会を中心としたQUを活用した学力向上のための研究授業等の充実 ○授業改善推進担当による改善計画・調査分析・活用等の充実

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法	教育課程編成上	校内における研究	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・能動的に学び続ける資質や能力を育成するために、生徒の対話を通じた問題解決型の学習を取り入れ、アクティブラーニングを推進する。 ・個別最適な学びを実現し、自主学習の定着を図るために、授業におけるICT機器の活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学…全学年で少人数習熟度別授業 ・英語…全学年でALT等による英語コミュニケーション授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲や態度の向上を図るための研究授業の実施 ・電子黒板、タブレットを活用したICT授業の工夫、学習形態の改善 ・生徒の実態や小中一貫教育と連動した指導の工夫・連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価と支援の一体化の推進・自己評価や相互評価など活用による生徒の評価能力の育成や意欲の向上 ・生徒による授業評価を踏まえた授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者アンケートの活用による授業改善への反映、保護者への意識啓発 ・学校評議員への実態報告と理解への啓発 ・学校だより、ホームページなどにより、学習・学力向上への取り組みの理解と協力啓発

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
第1学年	「漢字を書く」「資料をもとに話し合う」の項目で目標値を下回った。その一方で、「文章を書く」の項目では目標値だけでなく区平均正答率も上回っている。	「知識・技能」は目標値は上回っているが、区の平均正答率、全国の平均正答率を下回っている。 「思考・判断・表現」は、目標値と全国の平均正答率を上回っているが、区平均正答率を下回っている。 「主体的に学習に取り組む態度」は、全国の平均正答率を上回っているが、目標値と区平均正答率を下回っている。	約70%の生徒が正答率50%をこえている。教科の評定別人数比では、約半数の生徒が4に相当している。各クラスの正答率は10ポイント程度の開きが見られる。
	課題の見られた設問	授業改善策	
	「インタビューの内容を聞き取り、適切な質問を考える」設問において、質問を書きはいても適切な質問になっていない解答が多い。 「説明的な文章の構成」の正答率が低い。 「資料をもとに話し合う」において、「情報と情報の関係を理解し、文章の情報を整理する」設問の正答率が低い。	書くことはできているが、説明的文章や情報と情報の関係に関する力に課題があるため、説明的文章の指導に力を入れる。具体的には、 ・事実と意見の読み分けの練習 ・文章の構成を考える練習 ・接続語の学習	
第2学年	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
	すべての項目において、目標値を上回っている。その中でも「漢字を読む」「漢字を書く」「文学的な文章を読み取る」の項目では、区平均正答率も合わせて上回っている。特に、「文学的な文章の内容を読み取る」の項目は目標値を10ポイント近く上回り、得意な生徒が多いことが読み取れる。一方、「文章を書く」の項目ではほぼすべての問題で目標値を下回っている。無解答者も多い。	「知識・技能」は目標値、区の平均正答率、全国の平均正答率すべてを上回っている。 「思考・判断・表現」は目標値は上回っているが、区平均正答率、全国の平均正答率は下回っている。 「主体的に学習に取り組む態度」は目標値、区の平均正答率、全国の平均正答率すべてにおいて下回っている。	約80%の生徒が正答率50%をこえている。教科の評定別人数比では、約半数の生徒が4に相当している。各クラスの正答率は63から84と約20ポイントの開きがあり、クラス間の差が大きい。
	課題の見られた設問	授業改善策	
	「文章を書く」課題の無回答者が多い。 「話し合いの内容を聞き取る」課題のうち、「話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめる」設問において、キーワードは抜き出せていてもその説明が適切ではない解答が多い。	文章の読み取りはよくできる一方、書くことに課題が残るため、書くことの指導に力を入れる。具体的には、 ・文章を書く機会を増やし、書くことに慣れさせる。 ・抽象的なことを具体的に説明させる練習をする。 ・文章の構成等書くことの基本事項を再確認し、文章を書く度に確認する機会を設ける。	
第3学年	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
	基礎・活用ともに、目標値および区平均正答率・全国平均正答率を上回っている。目標値をとくに大きく上回っているのは、活用の方である。	[目標値・全国正答率をともに下回る問題] ○知識理解(「延びた」の書き取り) 目標値-11. 8ポイント、全国正答率-0. 4ポイント。 ○知識理解(古典を読む) 目標値-1. 2、全国正答率-2. 7 [目標値・全国正答率をともに上回る問題] ○書く(文章) 目標値+11~16、全国正答率+8~13	4クラスを比べると、概ね同じような分布となっているが、4組に高得点者が多い。
	課題の見られた設問	授業改善策	
	漢字の読み書き問題については、出題漢字によって正答率に大きな差がある。 説明的な文章・文学的な文章の問題については、目標値・全国正答率を上回らせたい。	日頃の漢字指導の中で、生徒の正答率の低かった語句の振り返りを行い、定着させていく。 説明的な文章・文学的な文章の読解については、短時間で要点を捉えながら読むような練習を行う。 選択肢問題など、試験問題の解答のしかたになれさせる。	

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
第1学年	<p>・「日本の政治」の項目について目標値、区・全国平均を下回った。</p> <p>・「縄文時代～平安時代」の項目について、目標値、区・全国平均を下回った。</p> <p>・領域別に見ると「我が国の歴史」のみが目標値、区・全国平均を下回り課題が見られる。</p>	<p>・「知識・技能」の観点で目標値、区・全国平均の全てを下回っている項目が多い。</p> <p>・区平均と比較すると「知識・技能」では0.6ポイント高く、「思考・判断・表現」では0.7ポイント高く、「主体的に取り組む態度」では1ポイント上回った。全国平均と比較すると「知識・技能」では1.4ポイント、「思考・判断・表現」では0.6ポイントを下回り、「主体的に取り組む態度」では0.7ポイント下回った。</p>	<p>正当分布率において、59%の生徒が、正答率50%を上回った。最多人数が60～70%の中に位置した。正答率90～100%の生徒は全体の2.1%と非常に少ない。評定別人数比では2と4が目立ち、二極化の状態が顕著である。</p>
	<p>課題の見られた設問</p> <p>①国会の役割の理解についての問題は目標値から11ポイント減であった。</p> <p>②大和朝廷による統一についての問題は目標値から11.8ポイント減であった。</p> <p>③文明開化についての問題は目標値から17.1ポイント減であった。</p> <p>④環境保全に関する国際協力についての問題は目標値から19.5ポイント減であった。</p>	<p>授業改善策</p> <p>・資料の読み取りなど表面上だけ捉えずに、実生活とのつながりを考えさせる。</p> <p>・当時の人々の心情理解や資料の提示、資料の読み取りを通して時代背景が理解できるよう工夫をする。</p> <p>・資料の情報を整理するだけでなく、人の動きや思いと繋げながら事象を理解させる。</p> <p>・複数の資料を読み取る経験を多く積ませる。</p>	
第2学年	<p>①世界の国々の国旗の特色の問題は目標値より12.6ポイント減であった。</p> <p>②アジア州での農業生産について資料を基に考察する問題は目標値より15.8ポイント減であった。</p> <p>③縄文時代から古墳時代にかけての年表の表し方についての問題は目標値より20.5ポイント減であった。</p> <p>④中世日本の武士の成長についての問題は目標値より20.4ポイント減であった。</p>	<p>・3観点全てにおいて目標値・全国・区平均全て下回っている。</p> <p>・特に「知識・技能」においては区平均より7.2ポイント、全国平均より9.5ポイントと大きく下回っている。</p> <p>・「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」においてはどちらも区平均や全国平均と比べると4ポイントから5ポイント下回った。</p>	<p>正答分布率において、53.5%の生徒が、正答率50%を上回った。最多人数が50～60%の中に位置した。正答率90%～100%の生徒は全体の0.6%と非常に少ない。評定別人数比では2と4が目立ち、二極化の状態が顕著である。</p>
	<p>課題の見られた設問</p> <p>①卑弥呼に関する内容の定着に課題が見られる。</p> <p>②中世(承久の乱・勘合貿易)の政治や経済の仕組みに関する内容理解に共通して課題が見られる。</p> <p>③複数資料を関連させる問題については無解答が増える傾向がうかがえ、目標値から正答率が大きく下回った。</p>	<p>授業改善策</p> <p>・特に歴史分野での知識・技能に関しては、単元毎に用語が確認できる振り返りシートや小テストなどを活用し、繰り返し復習する機会を充実させる。</p> <p>・思考・判断・表現に関しては、日常の授業において資料を読み取り、意見を共有する対話的な学習や学習課題を設定していく。</p> <p>・複数資料の関連づけや、資料から読みとった歴史的事象と、その事象が与えた影響に関して答える設問に共通して課題が見られた。これらに対しては、①資料同士の関係性を考える活動を生徒とのやりとりを通して丁寧に行うこと、②歴史的事象の意味や意義を考えさせる活動や課題を設定し、指導していく。</p>	
第3学年	<p>領域を見ると「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」において、目標値、全国平均、区平均を6.2ポイント下回る項目があった。「明治時代」においては、ほとんどの項目で目標値、区平均、全国平均を10ポイント程度下回った。</p>	<p>昨年度との比較では、すべての観点で全て上回っている。特に主体的に学習に取り組む態度の領域では約5ポイント上回った。区平均との比較では全ての観点が上回った。</p>	<p>正当分布率において、57%の生徒が、正答率50%を上回った。最多人数が60～70%の中に位置した。正答率90%～100%の生徒は全体の0.5%と非常に少ない。評定別人数比では2と4が目立ち、二極化の状態が顕著である。</p>
	<p>課題の見られた設問</p> <p>①豊臣秀吉の政策についての問題では、6ポイント減であった。</p> <p>②殖産興業に関する問題で目標値から21.5ポイント減となった。</p> <p>③明治政府の外交に関する問題では、目標値から8ポイント減であった。</p> <p>④ヨーロッパ人との出会いに関する問題では目標値より10ポイント減となった。</p>	<p>授業改善策</p> <p>・地理や歴史の基礎的な語句の習得において課題があったことに関しては、単元毎に用語の確認テストなどを反復して取り組むことが有効と考える。</p> <p>・資料を活用する問題においては意識的に授業や定期テストで資料を扱ったり、設問として問う訓練を行ったことが得点につながったと考える。</p> <p>・記述問題に関しては、生徒が自身の記述を正解とよく見比べ、その隔たりをしっかりと認識し、より正確な表現ができるようにしていかなければならないと考える。そのためには、まず問題や課題の捉え方を指導し、社会的な見方考え方から迫る指導が必要だ。</p>	

第1学年	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
	<p>正答率 基礎 応用</p> <p>R4-校内平均 70.0 70.8 67.1</p> <p>R3-校内平均 66.6 70.0 53.2</p> <p>R2-校内平均 68.2 71.5 56.8 (前年度)</p> <p>3年間の結果を比較しても、例年より正答率がやや高いことが分かる。また、全国平均(69.2)との差はあまりないが上回っている。</p>	<p>概ね、目標値を超えている領域が多いが、「単位量あたりの大きさ」「小数・分数の計算」「文字と式」の3つの項目で目標値を下回っている。</p>	<p>1年生数学を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。ヒストグラムでは学年全体の正答率は80ポイントを超えているが、クラスによっては、40～60ポイントに分布が集まっているものもあり、二極化も否めない。</p>
	課題の見られた設問	授業改善策	
<p>□【分数×分数】に関する問題 目標値 マイナス10ポイント 誤答 43.3 無回答 5.8</p> <p>□【小数の除法】 目標値 マイナス15ポイント 誤答45.6</p>	<p>□ 小数や分数の乗除について、丁寧な説明を心掛ける。</p> <p>□ 計算ドリルや、学習プリントで継続的な指導を行う。</p> <p>□ 「文字」の扱いについては、丁寧に指導を行う。</p>		
第2学年	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
	<p>正答率 基礎 活用</p> <p>目標値 58.8 60.2 55.0</p> <p>全国平均 56.6 58.2 52.3</p> <p>区平均 61.0 62.9 56.0</p> <p>校内平均 58.1 59.0 55.7</p> <p>・「比例・反比例」「空間図形」「データの分析の傾向」では、概ね目標値と差がない。</p> <p>・「正負の数(-3.5)」「文字式(-4.0)」「1次方程式(-5.7)」と計算分野は目標値を大きく下回っている。</p> <p>・「平面図形(+7.1)」と目標値を上回っている。</p>	<p>知・技 思・判・表 主体的</p> <p>目標値 61.2 50.0 51.9</p> <p>全国平均 58.7 48.6 48.2</p> <p>区平均 63.4 51.9 52.2</p> <p>校内平均 59.8 51.8 51.0</p> <p>・どの観点も概ね目標値と差はないが、「知識・技能」は1.4ポイント下回っている。</p>	<p>20%以上50%未満と60%以上90%未満の2カ所に山ができています。学級別に見ても、全学級とも2つの山に分かれています。</p>
	課題の見られた設問	授業改善策	
<p>・負の数の減法、1次式の減法、素因数分解、1次方程式、比例式などの計算分野で-5ポイント未満である。</p> <p>・関数、比例関係に関する問題、比例のグラフなどの関数分野でも-5ポイント未満である。</p>	<p>・計算分野に課題が見られるため、定期的に計算の復習問題や計算コンテストなどを実施していく。</p> <p>・関数分野では、関数に関する知識やグラフなどの基礎的な内容が未定着のため、1次関数に入る前に復習を入れていく。また、比例との関係性なども触れながら指導にあたる。</p>		
第3学年	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
	<p>・校内平均正答率は目標値を0.5ポイント下回り、全国平均を4.4ポイント上回った。</p> <p>・活用問題は目標値を1.1ポイント上回った。</p> <p>・内容別で目標値と2ポイント以上離れているのは、連立方程式-5.3ポイント、確率+2.2ポイント、データの分布と傾向+3.7ポイント。</p>	<p>どの観点も概ね目標値と差は無いが、主体的に学習に取り組む態度が目標値を1.1ポイント下回っている。</p>	<p>正答率10～20%、40～50%、70～80%の3カ所に集団ができており、生徒の習熟度が3つの層に分かれています。</p>
	課題の見られた設問	授業改善策	
<p>・連立方程式の立式は目標値-18.4ポイント、連立方程式の文章題では-6.9ポイントであった。</p> <p>・式の値を求める問題は目標値-7.2ポイントであった。</p>	<p>・連立方程式を解く計算問題では目標値や全国平均をやや上回っているため、基礎的な部分の定着は見られる。基礎を活用した問題を授業中にも扱い、学習したことを活かす力を身に付けさせる。苦手な生徒には表や図の穴埋めから行わせるなど習熟度に応じて指導する。</p> <p>・同類項をまとめたり単項式の乗除には定着が見られるので、代入する部分で躓いていることが考えられる。式の計算を扱う様々な場面で代入は扱うので、その都度計算させ、代入の仕方を確認する。</p>		

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
第1学年	植物のつくりとはたらき、生物と環境、てこのはたらき、電気の利用は全国平均に達しているが、動物のからだのつくりとはたらき、月と太陽、大地のつくりと変化、水溶液の性質は平均を下回った。	観点別結果の分析では、すべての項目で前項区平均を下回った。知識・技能と思考・判断・表現は区平均を上回った。	分布の山を見ると、約24%の生徒が正答率50%台で、一番多かった。ついで、約18%の生徒が正答率70%台、約16%の生徒が正答率60%台であった。
	課題の見られた設問	授業改善策	
	①水の流れてによって堆積してできた層の粒と、火山のはたらきによってできた層の粒の違いを説明できる。【目標値から27.1ポイント減】 ②実験から、和歌が読まれたときの月の形を推測することが出来る【目標値から18.2ポイント減】 思考・判断・表現を求められる設問に課題が見られる。	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を教え込むだけでなく、知識を活用した授業作りを単元の中で行う ・実験、観察の中で考察を書かせることで思考力、判断力、表現力を養う ・実験結果から結論付けたことを、問題で活用できるように練習問題をする。 	
第2学年	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
	<ul style="list-style-type: none"> ・「粒子」の領域は全国平均とほぼ同じ、「地球」の領域は全国平均より少し下回り、「エネルギー」「生命」の領域は全国平均を大きく下回っている。 ・特に「物質の状態変化」の大問においては、全ての小問について全国平均や目標値を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別結果の分析では、すべての項目で全国平均を下回った。 ・「思考・判断・表現」の観点は、区平均とほぼ同じであった。 	分布の山を見ると、約25%の生徒が正答率40%台で、一番多かった。ついで、約22%の生徒が正答率30%台、約13%の生徒が正答率50%台であった。
	課題の見られた設問	授業改善策	
	①柱状図から考えられることを検討し、考えを改善できる。【目標値から37.1ポイント減】 ②弦をはじいたときの振れ幅を、「振幅」ということを理解している。【目標値から32.2ポイント減】 ③質量パーセント濃度を求める式を理解している。【目標値から24.1ポイント減】 尿素の結晶が出てきた理由を、尿素の溶解度から分析できる。【目標値から24.1ポイント減】	<ul style="list-style-type: none"> ・重要語句の理解や知識を活用させることによって成功体験を導き、科学が生活に即していることを実感させつつ「主体的に学習に取り組む態度」の醸成を行う。 ・実験や観察を通して、より科学的な根拠を明確にした、思考力・判断力・表現力の養成を行う。 ・知識・技能の定着のために、ほぼ毎時間、問題練習の時間を設ける。 	
第3学年	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
	<ul style="list-style-type: none"> ・「エネルギー」、「粒子」、「生命」の領域は全国平均を上回っている。 ・「地球」の領域は全国平均より下回っている。 ・「粒子」、「生命」、「地球」の領域で目標値を超えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点は、全国平均を上回っている。 ・「主体的に学習に取り組む態度」の観点で、全国平均を下回っている。 	分布の山を見ると、約24%の生徒が正答率60-70%台で、一番多かった。ついで、約18%の生徒が正答率50%台であった。 ・正答率30%未満の生徒の割合は、自治体と比べて低い。
	課題の見られた設問	授業改善策	
	①電力量を求めることで、急速充電をするときに消費する電流の電力を求めることができる。【目標値から32.6ポイント減】 ②ポンプを動かして水がくみ上げられた理由を記述できる。【目標値から20.9ポイント減】 ③ピンチコックでゴム管をとめた理由を理解している。【目標値から20.6ポイント減】	<ul style="list-style-type: none"> ・①公式等を用いた計算において、4割の生徒は基本的な計算はできていたが、6割の生徒はできなかった。繰り返しの計算問題演習を取り入れていく。また基本的な計算ができる4割の生徒のうち、応用的な問題の正答率は2割程である。基本的な計算を身に付けた生徒へは応用力を付けていく。 ・②理由を記述する問題において、約48%の生徒が誤答、約33%の生徒が無回答であった。教科書や問題集などで学んだ知識や技能を用いて、理由を表現する機会を増やしていく。 ・③実験操作の問題において、「何のためにこの操作をするのか」をしっかりと理解させていく。誤答の約60%について、多くの問題の答えになる「逆流」という言葉に引っ張られた、問題の図には「石灰水」が書いてありそれを見て答えた、などが考えられる。 	

第2学年	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
	<p>正答率は全体的に少しずつ目標値に達していない項目が多い。【リスニング】と【3文以上の英作文】が目標値を5ポイント以上上回っているのに対し、【語形・語法の知識・理解】と【情報に基づいて書く英作文】は6ポイント以上目標値を下回っている。</p>	<p>・リスニングはおおむね目標値に達している。しかし、要点をまとめる項目は正答率が低く、目標値に達していない。 ・リーディング、ライティングに関しては正答率が低い設問がある。基本文は理解できているようだが、応用力に課題があるように思われる。ある情報に基づいて答えることができない生徒が多い。一方で自分自身のことを答える問いは正答率が高い。</p>	<p>正当分布率において、全クラスとも60パーセントに達している。しかし、正答率30、40パーセントの生徒も多いため、生徒によって差が開いていることが分かる。</p>
	課題の見られた設問	授業改善策	
<p>リスニングでは要点をまとめる問題、リスニング・リーディング・ライティング全てでは、ある情報を基に情報を整理しながら解く問題に手こずっている生徒が多く見受けられる。また、基本的な語形・語法が身につけていない生徒も多い。</p>	<p>・授業内で基本的な語彙・語形・語法の知識向上につながる小テストなどを多く取り入れる必要がある。 ・生徒の活動の機会を増やし、英語に対する苦手意識を減らす。また長文問題に触れる機会を多く取り入れて文章要約能力を伸ばす。</p>		
第3学年	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
	<p>・リスニングにおいては記号選択問題が全て目標値を5ポイント以上上回っているが、聞き取った内容に英文で答える問については2ポイント下回っている。 ・文法・語法の知識についても全設問において目標値を達成し、特に語彙に関する問題については10ポイント以上高い正答率となっており、十分な語彙力を身に付けていることがわかる。</p>	<p>・リスニング、ライティング、リーディング3技能すべてにおいて全国平均、目標値を上回っている。特にリスニングにおいては2問を除く全設問において5ポイント以上上回り、リスニング力の高さがみとれる。 ・一方リーディングにおいては内容理解が不十分な点がみられ、概要把握や具体情報の読み取りのスキルを身に付けていく必要がある。</p>	<p>・ボリュームゾーンである正答率50%以上70%未満に4割以上の生徒が属しているが、80%～90%の達成率の生徒も2割以上存在し、英語力の2分化がみられる。 ・生徒の英語習得状況の差を加味したうえで、個別最適な学び・協同的な学びの双方を取り入れ、学習活動の充実を図る必要がある。</p>
	課題の見られた設問	授業改善策	
<p>・「場面に応じて書く英作文」における「対話の流れを踏まえて疑問詞を用いてたずねる」問題の正答率が22.1%と最も低い。 ・英作文問題の無解答率が2割弱と高い。 ・「長文の読み取り」における「内容把握」問題が4設問中2問が目標値を下回っている。</p>	<p>・授業内の活動において、「目的・場面」を設定した上で、日常的话题や社会的な話題について、把握した内容に基づいて自分の意見や気持ち、その理由などを書く活動を取り入れる。その際、テーマや話題から想起されるアイデアについてのマッピングを活用するなど、思考や情報の整理を行い、ライティング力の向上を図る。 ・授業において教科書を活用することに加え、別途リーディング教材を読み概要を把握、設問に答える活動を「帯学習」として取り入れ、継続的にリーディング活動に取り組むことで読解力、速読力の向上を図る。</p>		